

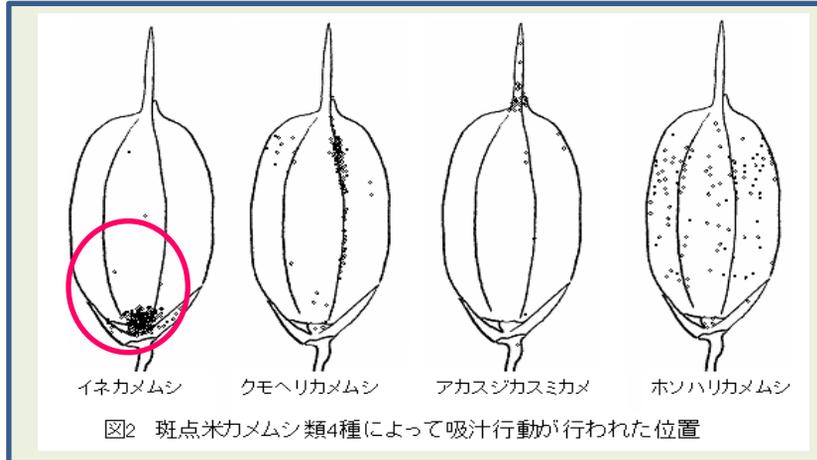
早期水稻(コシヒカリ等)で、イネカメムシが多発。

4月田植えの早期コシヒカリにてイネカメムシが多発しています。イネカメムシの発生が確認された場合は下記防除を実施しないと、収量・品質が大幅に低下します。

イネカメムシ7月6日撮影



イネカメムシは籾の基部を吸汁し、不稔粒を発生させます。また不稔にならなかった粒は斑点米となります。日中は株元に待機し、夜間になると穂に付着し吸汁します。



走り穂～出穂期頃に1回目の防除を実施します。

1回目の防除後もイネカメムシが圃場で確認された場合は、2回目の防除を実施します。

出穂期

出穂後7～10日
(1回目の防除後7～10日)

イネカメムシの防除適期は出穂期頃に1回実施し、その後もイネカメムシが確認される場合は2回目の防除を1回目の7～10日後に実施します。他のカメムシと違い、穂が垂れ下がってからの防除では不稔粒が多発し、減収します。他のカメムシもいる為、基本的には出穂期に1回、その7～10日後にもう1回防除する事が1番効果的だとされています。